

学校教育経営方針

豊中市立大池小学校

1. 学校教育目標

「求めて学ぶ子どもの育成」

「求めて」とは

やってみたいことを見つけ、どのようにやろうかと考え、実際に行動することによって新しい課題を発見し、さらに挑戦すること。

「学ぶ」とは

人間らしい生き方を身につけ、学ぶ喜びを実感しながら、自発的、能動的、協働的に努力を惜しまず、自己実現していくこと。

「求めて学ぶ子ども」とは、自分で考え、計画を立て、主体的に取り組む子どものことである。

- ・「求めて学ぶ子どもの育成」の中には「他者とともに学ぶ」「異なる意見を取り入れる」「最後までやり抜く」「目標に向かって挑戦する」などの態度も含まれている。
- ・個人や同質的な環境では目標は達成しにくく、学校活動という異質的な集団の中で、自分とは違う多様な他者と触れ合う機会の中で違和感、気づきから自らの問いを持ち、解決していく力が育っていくものとする。将来の予測困難な社会の中で、しっかり生きていくことのできる力を身につけていくことをめざす。

2. めざす子ども像

- ① **自ら学びとり、友だちと対話しながら問題を解決する子ども**
 - ・自分で課題を見つけて解決していく子ども
 - ・対話で自分の考えを深め、課題を解決していく子ども
 - ・自分で判断し、周りの友だちと協力しながら新しいものを創り出していく子ども
- ② **思いやりの心を持ち、自他を大切にできる子ども**
 - ・お互いの個性や多様性を認め合い、温かい人間関係をつくっていく子ども
 - ・自らを律し粘り強く取り組んでいく子ども
 - ・ほがらかに友だちと協力して生活していく子ども
- ③ **健康で明るく生活し、「いのち」を大切にする子ども**
 - ・「いのち」の尊さを知り、自分の体を大切にする子ども
 - ・運動に親しみ、健康で安全な生活ができる子ども
 - ・基本的な生活習慣を身につけている子ども

3. 学校経営の重点

- 安全・安心で信頼される学校づくり
- 児童による主体的な（自発的・自治的）活動の充実化
- 全教職員の協働体制による組織として教育力を発揮する学校
- 児童が相談しやすい環境づくり
- 一人一台タブレットを活用した授業づくり
- 幼保小中連携の推進
- 保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、組織的に協働する教育

- ・AI(人工知能)時代を生き抜くための「人間力」の育成・・・教育は「人格の完成」をめざす。人権尊重、自尊感情、自己肯定感、コミュニケーション力、社会性等を育成する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現・・・これまでの実践と ICT との最適な組み合わせを実現する。
- ・定期的に派遣される SSW、SC の効果的な活用・・・相談支援体制の充実化と迅速化を図る。
- ・「教師力」の向上・・・お互いがもっている知識や技能を共有して学び合う組織、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的・協働・学び続ける力の向上に努める。
- ・危機管理の徹底と報告・連絡・相談・共有化の確実な実施
- ・学校組織を活性化させるため、常に改善する視点をもつ。ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・個人情報 の適正な取り扱いと管理の徹底

4. 学習指導の重点

「生きる力」を育むという理念を共有し、「確かな学力の向上」を重点においた取り組みをさらに発展させ、「学校の総合的な教育力」を高める。

学校の総合的な教育力とは

① 「ことば」の力を育てる

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を土台とした学習活動を通して、聞き合う力、話し合う力、考える力、感じる力、表現する力を育てる。

② モラル・人権意識を高める。

学級や学年、学校行事などの集団活動を通して、児童に集団の一員としての自覚や自尊感情を高め、よりよい集団を形成するとともに、自己と他者の人権を尊重する意識を育てる。

③ 協働して活動する力を育てる

学校の教育活動や地域での活動など他者と関わるさまざまな体験を通して、協同(協働)して活動する力を育てる。

④ 得られた情報をもとに論理的に考え、判断する力をつける

科学的認識力を高め、ものごとの本質に迫る知的活動を豊かにさせる。

(1) 学校の総合的な教育力を高める実践的な研究の推進

本校の児童は、知識を活用する力やねばり強く学習することなど、学びの基礎力や知識や

技能の活用に課題がある。このため、すべての教科・領域等において、「学校の総合的な教育力」を高める実践的な研究を一層推進する。

具体的には、児童の実態を知り、教材研究を深め、授業研究を通して、習熟度別学習を取り入れるなど、学習指導法の工夫と改善に努め、学ぶことへの喜びと成就感を味わわせる。

(2) 支援教育の充実

配慮の必要な児童の課題と支援のあり方について共通理解を図り、保護者や関係機関との連携のもとに、個に応じた支援教育の充実を図る。また、すべての児童が互いに理解し合い、ともに生きる力を育てる。

(3) 子どもの発達課題への理解

自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障がい(LD)の子どもの発達特性を理解し、適切な支援を行えるよう、教職員研修を深めるとともに、通級指導教室の個々の特性に応じた指導・支援の工夫や配慮を通常の学級での学習や生活に生かし、環境整備に取り組む。

また、子どもの貧困の問題や保護者のメンタルケア等、家庭的な背景にも目を向け、支援の必要な場合には関係機関との連携を図る。

(4) 人権尊重の教育の推進

身近な問題を通して、不合理な矛盾に気づき、これを克服し、かけがえのない命の大切さと人間の尊さを自覚させる。

障がいのある児童の発達上の課題を把握し、よりよい支援を行うとともに、障害のある児童に対する理解を深め、確かな人権感覚を培う。また、互いの人権を尊重し、思いやりのある学級集団作りを進めることにより、集団の規範を尊重し、多様な価値観を認め、他者と協調して活動する意識を育てる。

日常の指導の中で、子どもの人格を傷つけるような言葉使いや態度がないか、自らの人権感覚を見つめなおす。

国際理解教育に取り組み、様々な国の文化について理解を深め、異文化を尊重する精神を育む。

(5) 情報モラルと情報リテラシーの教育の推進

これからの超情報化時代の到来に向けて、情報をやり取りする際のルールやマナーを理解する学習、「情報の真偽を判断する力」「情報を適切に活用する力」「情報を安全に活用する力」を身につける学習を一層充実させる。

(6) 小中一貫の教育の推進

小中学校間の円滑な接続を図ることにより中学校との段差解消をすすめるとともに、義務教育9年間を見据えた効果的な学習指導環境の構築をめざす。

(7) オープンスペースの活用

児童が自発的に調べ学習や表現活動を行えるように、オープンスペースを活用した多様な学習形態による協同的学習を一層充実させる。

(8) 学校図書館教育の充実

学校司書との協力のもとに、読書環境の一層の整備を図るとともに、児童の読書活動の充実や授業における活用に努め、学校図書館教育の充実を図る。

5. 生徒指導の重点

(1) 成長を促す指導と支援

児童の問題行動には、早期発見・早期指導で臨み、児童自ら正しい考えを見つけ出していくよう指導と支援に努めるとともに、児童に関わる情報を全教職員で共有し、成長を促す指導

と支援に努める。

(2) いじめ・不登校の未然防止

教師と児童、児童相互の人間関係を密にし、温かく心の通った学級、学年の集団づくりに取り組む。いじめを生まない、許さない気風を育てる。そのために個と個が互いに高まり合う集団となるよう留意し、集団を通して学校生活の喜びが得られるように努める。

(3) 道徳的実践力を高める

人間としてよりよく生きるための、道徳的な心情、判断力、実践意欲などの道徳性を養う。「道徳の時間」やすべての教育活動を通して指導の充実に努め、道徳的価値の自覚、道徳的な実践力を高める。

(4) 関係諸機関・諸団体との連携

家庭・PTA・地域諸団体との連携を密にし、地域ぐるみで児童の健全育成が図られるように努める。また、SC や SSW を活用し関係諸機関とも連携を深め、幅広い対応を行う。

(5) 自治的活動の推進

児童会活動等を通して、児童の自治的・自発的活動の推進を図り、自ら協力してより良い生活を創りあげようとする児童の育成に努める。

6. 健康管理と安全指導の重点

(1) 生命尊重の指導

命あるものすべてを慈しみ、自らの命の大切さ・健康増進について自覚を持たせ、健康な生活を営む上で必要な習慣や態度をあらゆる教育活動を通して身につけさせる。

(2) 健康管理の指導

学校保健計画に基づき、児童の健康を保持するために保健指導の徹底にあたる。

(3) 健康でたくましい体力向上の指導

体力の向上と健康保持のために、体育や食育をはじめ、あらゆる教育活動を通して、体づくり・体力づくりに努める。

(4) 安全と防災の教育の充実

命の大切さと安全や防災に対する知識・技能・態度を育てるため、安全教育と防災教育を教育計画に位置づけ、避難訓練等の実践的な学習を計画的に行う。

7. 地域とともにある学校づくり

(1) 学校運営協議会の充実

地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域の教育力の低下や、家庭教育の充実の必要性が指摘されている。また、学校が抱える課題は複雑化・困難化している。「社会に開かれた教育課程」を柱とする学習指導要領の改訂や、チームとしての学校等、昨今の学校教育を巡る改革の方向性において、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されている。

これからの厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤の構築等の観点から、学校と地域はパートナーとして相互に連携・協働していく必要があり、そのことを通じ、社会総掛かりでの教育の実現を図ることが必要である。

(2) 地域教育コミュニティの核としての学校づくりの推進

「地域の子どもは地域で育てる」を基本とし、本校児童の健全育成に向け、PTAや地域諸

団体との連携を一層図り、「大池地域子ども教室」「子ども安全見守り活動」「花のあふれるまちづくり」等の充実を図るとともに、児童がさまざまな地域活動に積極的に関わるよう努める。